

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子世田谷船橋保育園
施設所在地	東京都世田谷区船橋4-13-7
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然・生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

普段から図鑑を見ることが好きで、近隣の公園へ散歩に出かけた際に虫などの生き物に触れて遊んだり、植物の見てこれはなんだろう??と疑問に感じ園で調べようとする姿が多く見られる。五感を使い、注意深く観察する力を養い興味の幅を広めていき、その中で集めたもので表現する楽しさを知る事ができるようにしていきたい。

2. 活動スケジュール

【観察コーナーを設置する・昆虫を飼育する】

5月～8月：・観察できる環境を設定する。観察用に虫眼鏡を用意する。
・4歳児クラスでクワガタの飼育開始

【講師来園 昆虫や土などの自然物に視野を広げる】

9月6日：講師によるスタッフ向けの研修。虫嫌いな大人が多く。大人が虫に対して身近に感じたり少しでも克服できるように虫に対して様々なアプローチの仕方があることを学ぶ。

9月25日：講師来園 園児向けワークショップ。子どもとスタッフが一緒に土の観察を行う。今まで気づかなかった土の色や匂いなどに気付かせてもらう。観察コーナーにレンズや図鑑を用意する。芋ほりで見つけた幼虫の観察。

【講師来園 土の微生物の観察】

11月19日：講師来園 園児向けワークショップ。今回は目に見えない生き物にも気が付けるようなアプローチを行なう。土中の微生物の観察の為、顕微鏡を追加する。

12月2日：身近な自然とは違う場所、広い場所での自然物へ興味もてるように手配したバスに乗って生田緑地へ行く。

【幼虫50匹の飼育開始】

12月：5歳クラス、プランターの中で見つけた幼虫50匹の飼育開始・現在も飼育継続中

【講師来園 生き物の造形活動】

1月：講師の方との最後のすくわく活動

1月20日：講師来園 園児向けワークショップ実施。土の成り立ちのおさらいと土だけでできている粘土で土の中に住んでいる、住んでいそうな生き物を作る。想像力を働かせ、一人ひとりが粘土の感触を楽しみながら作成する。粘土を水に溶かし、別の生き物を溶かした粘土で再度作る活動を計画中。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【散歩に出かけた際に持っていく】

Apexel顕微鏡・microSD32GB・フレンネルレンズ・シートレンズD-45T・先生オススメ！超観察ルーペ・まるみえダブル観察器

【室内で調べるための図鑑・カード等・環境設定の為の物】

子どもと一緒に見つける草花さんぽ図鑑・講談社の動く図鑑MOVE mini 昆虫・講談社の動く図鑑MOVE mini 植物・はじめましてのむしのしくとかなさつ・わたしはイモムシ・自然図鑑 花と木カード等・
棚

【戸外活動に出かけた】バス遠足代（生田緑地）

【観察した物の描く為の道具】クレパス太巻12色・手が汚れないクーピーペンシル12色・

【土の中の生き物たち】ワークショップ講師料（chiemin先生）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【観察コーナーを設置する・昆虫を飼育する】

【講師来園 昆虫や土などの自然物に視野を広げる】

- ・自然での遊び方・虫嫌い克服研修で見らと楽しく自然で遊べる方法を保育者が学ぶ
- ・自然探究をする環境づくり①：園庭や戸外で草花などの自然物に興味を持つ行動から、さらに興味、関心を深める為、観察できる虫眼鏡などの道具の用意をする。道具を使って自然の観察をする。
- ・自然探究をする環境づくり②：見つけてきた自然物を園でさらに詳しく知る為に、図鑑をクラスに用意し、児らが手に取って調べる。図鑑を見る児の姿から、様々な自然物へと興味、関心が移り変わっている様子が見られる。

【講師来園 土の微生物の観察】

- ・自然探究をする環境づくり③：図鑑を見る児の様子を理解したうえで、身近な土、昆虫、について講師の先生から詳しく学ぶ。

【幼虫50匹の飼育開始】

- ・園庭で育てていた野菜を片付ける際、プランターのそこに幼虫がいることに気づき「全部飼いたい！」と言い、プランターに毎日水やりを行い、飼育したが消えた。なぜ消えたか講師に聞き、飼育方法を変え、飼育中。

【講師来園 生き物の造形活動】

- 自然探究をする環境づくり④：自然探究を身近な戸外から、生田緑地のような広い場所で探究をする。
- 保育者間で自然探究ができる環境づくりはできていたか振り返り、今後もどのように繋げていくか話し合いをしたうえで、発信していく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

戸外での散策を行い、園にあるものだけで調べてきた。「先生、〇〇って公園で見たけど、これって保育園の図鑑で見れる？」と聞かれたは良いものの、図鑑の幅が少なく「これは保育園の図鑑では調べられないかな」と答えてきた。

自分で見てきたものを自分で調べることができるよう、幅広い図鑑の導入がされたことによって、自ら調べる児が多くなったり、図鑑に興味のなかった児までもが、興味を示したりする姿が見られるようになった。又、戸外に出た時の散策グッズも少なかったので、詳しく調べたり、自分の目だけで見るには限界があったが、観察記やルーペ、顕微鏡の導入で、さらに詳しく調べられるようになり、新たな発見を生み出すきっかけになった。そのことにより、戸外での散策活動が、見つけて終わりになることなく、探究心を養う力に繋がった。

生田緑地に行くことができたことにより、近隣の公園だけでは見つけられなかった自然物や生き物、星についても知ることができ、新たな発見になった。さらに土や自然の中での遊び方、保育者の虫嫌い克服については、講師の先生のお借りした。そこからより五感を使って、観察する力を養い興味の幅も広まっていった。又、その中で集めたもので表現する楽しさを知る事にも繋がった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

①戸外で散策を行い、園に戻って来てから図鑑を見る姿はあったが、何か物足りない様子があった。図鑑や散策グッズなどの物足りなさや散策の場の変わり映えがなかったため、遊び方の変化が見られなかった。

②図鑑や散策グッズ活動の場が広がったことにより、児らの散策の仕方や遊び方が以前と変わった。散策後に図鑑で調べたり、散策時に様々なグッズを使い、今までよりもこまかく調べたりする姿が見られた。児らの知識も増したように感じる。

③保育者も講師の方からの知識を得たことで、児の目線になって取り組みをすることが出来た。同じ目線で散策を行ったことで、児らの気持ちになって、何が足りないのか、もっとこうしたほうがよいのではないかなどを考えていくことができた。

④今後も継続してこの取り組みを行っていきたいと思う。散策を深めるだけでなく、講師の方に教えていただいた、土や生き物についてなどはまだまだ発展途中であるので、より深めていきたい。又、保育者も虫嫌い克服研修を受講したことで、虫嫌いの児の気持ちに寄り添いながらも、虫の観察の仕方、楽しさなどを伝えていきたい。

➡スタッフの気づき

研修を受けて、今まで苦手だった昆虫への見方や考え方が変わった。昆虫への苦手意識が大人がなくなることで子どもにもいい影響を与えられるのではないかと思う。